

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

令和7年 6月 11日

大阪府知事 殿

提出者

住 所 東京都中央区日本橋本石町1-2-2

氏 名 三菱ケミカルエンジニアリング株式会社
代表取締役 藤井 宏記

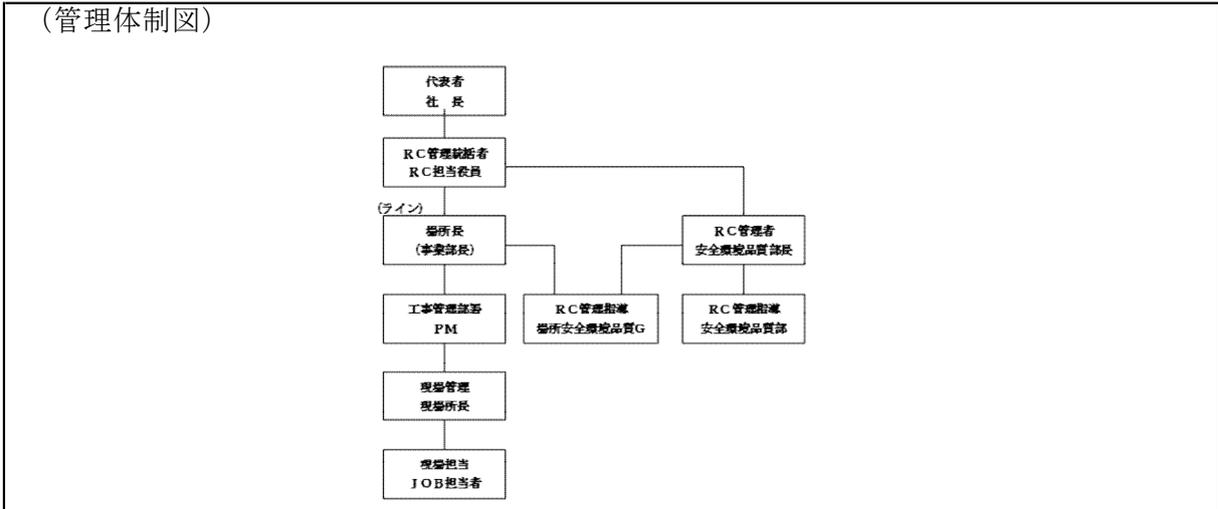
（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

電話番号 03-6262-0080

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	大阪府管轄内の建設現場
事業場の所在地	大阪府泉佐野市住吉町1番地、他
計画期間	令和7年4月1日 ～ 令和8年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	総合工事業
②事業の規模	完成工事高 157,478百万円（2024年3月期）
③従業員数	約2,500名（2024年3月期）
④産業廃棄物の一連の処理の工程	がれき類 ⇒ 破碎 ⇒ 再生利用 金属くず ⇒ 選別 ⇒ 再生利用 コンクリートくず、アスファルト・コンクリート破片 ⇒ 破碎 ⇒ 再生利用 ガラス、コンクリート及び陶磁器くず ⇒ 破碎 ⇒ 再生利用（一部埋め立て） 廃プラスチック ⇒ 選別、破碎 ⇒ 焼却 ⇒ 再生利用（一部埋め立て） 木くず ⇒ 破碎、チップ化 ⇒ 再生利用（一部燃料） 混合廃棄物 ⇒ 選別、破碎 ⇒ 埋め立て（一部再利用） 廃アルカリ ⇒ 中和、焼却 紙くず ⇒ 選別 ⇒ 再利用 廃油 ⇒ 燃料化 汚泥 ⇒ 固化 ⇒ 埋め立て

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	がれき類
	排出量	5746.6 t	41.4 t
	(これまでに実施した取組) ・環境マニュアル、管理規定に基づく建設廃棄物の発生抑制に努める。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	がれき類
	排出量	10 t	300 t
	(今後実施する予定の取組) ・環境マニュアル、管理規定に基づく建設廃棄物の発生抑制の継続。 ・ゼロエミッションの継続。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・特定建設資材の分別徹底。 ・建設混合廃棄物の中間分別処理によるリサイクル率向上。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・現場分別の強化によりリサイクル化を推進。 ・環境マニュアルに基づき、着工前に環境計画書で分別計画の作成を継続。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
【前年度（令和6年度）実績】			
建設系混合廃棄物	—	—	—
7 t	— t	— t	— t
【目標】			
建設系混合廃棄物	廃プラスチック類	ガラスくず等	—
300 t	50 t	50 t	— t

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	がれき類
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組） ・特に実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	がれき類
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組） ・特に実施の予定はない		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	がれき類
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	- t	- t
	（これまでに実施した取組） ・特に実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	がれき類
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	- t	- t
	（今後実施する予定の取組） ・特に実施の予定はない		

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
【前年度（令和6年度）実績】			
建設系混合廃棄物	—	—	—
0 t	— t	— t	— t
【目標】			
建設系混合廃棄物	廃プラスチック類	ガラスくず等	—
0 t	0 t	0 t	— t
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
【前年度（令和6年度）実績】			
建設系混合廃棄物	—	—	—
0 t	— t	— t	— t
— t	— t	— t	— t
【目標】			
建設系混合廃棄物	廃プラスチック類	ガラスくず等	—
0 t	0 t	0 t	— t
— t	— t	— t	— t

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	がれき類
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) ・特に実施していない		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	がれき類
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) ・特に実施の予定はない		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

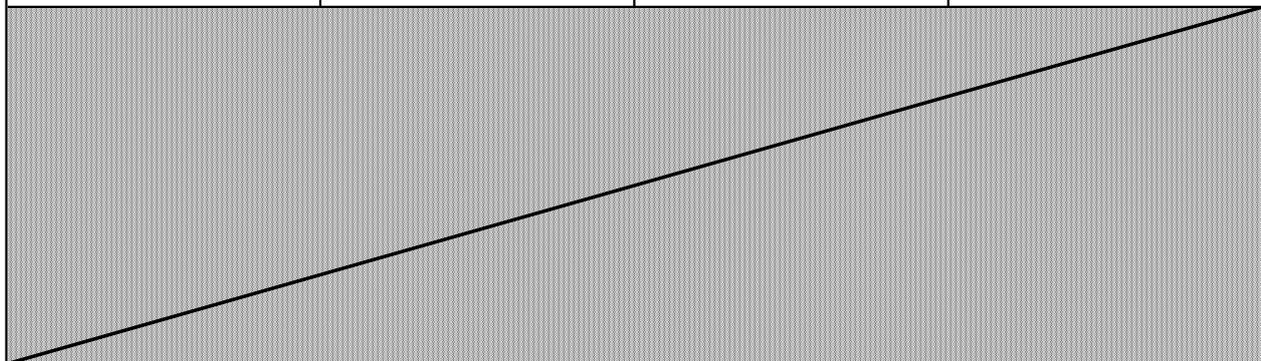
①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	がれき類
	全処理委託量	5746.6 t	41.4 t
	優良認定処理業者 への処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への 処理委託量	5746.6 t	10.4 t
	認定熱回収業者 への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) ・建設混合廃棄物の分別と減量化。 ・減量化処理業者との契約処理。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
【前年度（令和6年度）実績】			
建設系混合廃棄物	—	—	—
0 t	— t	— t	— t
【目標】			
建設系混合廃棄物	廃プラスチック類	ガラスくず等	—
0 t	0 t	0 t	— t
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
【前年度（令和6年度）実績】			
建設系混合廃棄物	—	—	—
7 t	— t	— t	— t
2.9 t	— t	— t	— t
4 t	— t	— t	— t
0 t	— t	— t	— t
0 t	— t	— t	— t

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	がれき類
	全処理委託量	10 t	300 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	0 t
	再生利用業者への処理委託量	10 t	100 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t
(今後実施する予定の取組) ・熱回収処理業者との契約処理（認定熱回収処理業者を含む）。 ・産廃最終処分量低減検討。			
※事務処理欄			

【目標】			
建設系混合廃棄物	廃プラスチック類	ガラスくず等	—
300 t	50 t	50 t	— t
0 t	0 t	0 t	— t
150 t	0 t	0 t	— t
0 t	0 t	0 t	— t
0 t	0 t	0 t	— t



備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。